

- JA長崎せいひいちご部会のうち管内のことのうみ部会(長崎市琴海地区)及び大西海部会(西海市)を対象に活動、産地の維持拡大と優良品種導入による収量向上が課題。
- 関係機関と連携して、新規就農者の確保、産地拡大、優良品種の作付拡大について取組んだ。
- **新規7名(うち法人1)の確保、10ha→11.2haへ産地拡大(事業による新設ハウス1.58ha)。**

具体的な成果

1 新規就農者等の確保

■ 新規就農者・参入者の増加

新規参入者数

R1 1法人

R2 6名



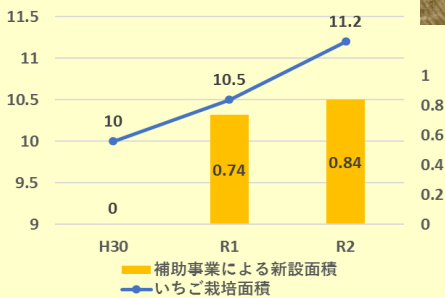
研修生への研修実施

2 産地の拡大

■ 補助事業およびJAリース事業の活用により産地拡大

10ha→11.2haに拡大

いちご栽培面積(ha)



新設いちごハウス

3 優良品種・環境制御技術の導入

■ 「ゆめのか」栽培面積増加

年度	H30	R1	R2
面積(ha)	8.8	9.4	10.4
割合	88%	90%	93%



「ゆめのか」の栽培

■ 環境測定機器の導入

年度	H30	R1	R2
導入済戸数(戸)	0	5	15
割合	0%	10%	27%



環境測定装置

普及指導員の活動

令和元年

■ JAの担い手支援センター設立を支援。

令和元年～2年

■ 県およびJAの担い手支援センターと産地への研修生受入を調整し新規参入に誘導、研修生や新規参入者への技術研修も担当。

令和元年～2年

■ JAのハウスリース事業開始とともに関係機関と連携して補助事業によるハウス導入を支援。

令和元年度5件、令和2年度4件のハウス新規建設を実現。

令和元年～2年

■ 高収量性の優良品種「ゆめのか」への品種転換を推進しおおむね導入が完了。

■ 更なる高収量を目指し環境制御技術の導入を推進、勉強会開催支援等により普及を図った。

普及指導員だからできたこと

・ JA、市、および県の担い手支援センター、事業担当課と密接に連携して新規就農者の支援、ハウス導入事業の実施を調整できた。

・ 現地検討会や個別の指導により品種転換を進め、勉強会の支援等による環境制御技術の普及を図った。